

平成18年1月15日

武庫川流域委員会
委員長 松本 誠様
環境ワーキンググループ主査 村岡浩爾様

武庫川流域委員会
委員 伊藤益義

武庫川流域での適正な土砂管理について（提案）

1月18日開催の環境ワーキンググループで土砂管理についてご検討をお願いいたします。

（提案理由）

国交省「河川砂防技術基準 同解説」によれば

国土管理の重要性は災害防止・資源の適正な利用・環境保全であり、その土地・水の管理については「流域の視点を含めた水・土砂の管理が重要」でソフト面、ハード面の施策を行う

とあります。

（同計画編11ページ）

また基本方針の項では、

・・・総合的な土砂管理の推進に努める・・・。総合的な土砂管理とは・・・土砂が移動する場合全体を流砂系という概念で捉えることにより。流砂系一貫として、土砂の生産の抑制、流出の調節等の必要な対策を講じ、解決を図ることをいう。

（同書21ページ）

この解説では、

・・・それぞれの河川・海岸等の特性を踏まえ、時間的・空間的な拡がりをもった流砂系において、土砂の生産の抑制、流出の調節を適切に行おうとするものであり、これにより土砂の移動による災害を防止し、河川・海岸等の生態系・景観を保全するとともに、河川・海岸空間の利活用を図り・・・。（同書21ページ）

武庫川流域は有数の土砂生産力を持つ六甲花崗岩地帯を持ち、有馬川、船坂川、大多田川、逆瀬川、仁川の支流ではかなりの土砂搬送が見られ、一昨年（2006年）の23号台風の災害の一因にもなったとも言われています。

土砂に起因する災害防止、河川・海岸等の生態系保全、景観保全から見て流砂形の管理をどう考えるかを検討する必要があると考えます。

また、土砂移動の実態が把握されていないことから、今後土砂移動のモニタリングについても実施をお願いしたい。

以上